

## 柔道漬けの我が青春

徳島大学医歯薬学研究部循環器内科学分野 教授

佐田政隆



体格が勝る相手を寝技に持ち込み、抑え込んだ



大学5年生で東日本医科学生体育大会個人優勝

私が柔道に出会ったのは中学1年の秋です。女性にも泣かされる弱々しい性格が直るならと、同級生の勧めで始めました。次第に夢中となり、中学2年で初段をとりました。高校では勉強をしながら練習もハードな毎日を送り、3年の時に全国大会である金鷲旗大会に出場したのは良い思い出です。

東大に進学してからは、全学の柔道部で柔道漬けの毎日でした。旧制高等学校による高専柔道の伝統を引き継ぎ寝技が中心です。井上靖氏の体験談を基にした小説「北の海」を愛読し、「体力やセンスがなくても、練習量と研究だけが勝敗を決定する寝技」の魅力にとりつかれました。立ち技からの移行技を研究し、ほぼ全ての試合を抑え込みで1本勝ちしていました。講道館の月次試合で、油断している私大二部校のレギュラー選手を抑え込むこともあり、大学6年で4段となりました。

人目引き分けました。最近、漫画版七帝柔道記も発売され、実名で自分が抑え込むところが描かれています。

東日本医科学生体育大会では、5年生で優勝、6年生で準優勝し、全国医師柔道大会で2連覇を達成しました。地方の医師会講演会で「僕のこと覚えていますか？ 学生の時、先生に瞬殺されました」と話しかけられることもあります。

同級生が分子生物学などの勉強会をする中、自分は筋肉強化の本を読み漁っていました。周りがテニスやゴルフサークルで楽しく女子大生と語らっているのに、汗臭い道着を着て、辛い稽古をなぜ続けたいといけないのか悩んだものです。しかし、今振り返ると、柔道を続けてきて本当に良かったと思っています。苦しい練習を乗り越えて、技を磨き、試合で勝つことは、その後の医師としての臨床、研究、教育においても、大いに役立つと確信しています。

### 佐田政隆 (さた まさたか)

1988年東京大学医学部医学科卒業。1994年米国ケースウェスタンリザーブ大学に留学。1996年米国タフツ大学に留学。1999年東大病院医員。2002年東京大学循環器内科助手。2008年徳島大学循環器内科教授。